

置き竿釣法対応の遊動仕掛け

インダイ専用竿5㍍クラス

違和感なく餌を食い込ませられるしなやかな竿先と、強烈な引きの強さに負けないうえに50㍍級であれば引き抜けるだけの強靱なパワーを胴部分に備えた専用竿が理想的です。主に「M(中調子)」「MH(中硬調子)」「H(硬調子)」という具合に竿のかたさが分類されていますが、40~50㍍がアベレージとなる紀伊半島の釣り場であれば引きの手応えをしっかりと楽しめるMクラスを用いるのがおすすめです。

カウンターつきの両軸リール

ナイロンライン20号を100~150㍍巻ける、巻き取りのトルクがある両軸リールを用います。

仕掛けをズル引くことで得られる感触から海底の地形を想像して狙い目(海溝やカケアガリなどの変化)を絞り込み、そこに餌がついた仕掛けを入れ続けてポイントを作りながら釣ることを基本とします。また、アタリが1度でたところは引き続き反応が期待できるため、再度投入するのもセオリーの1つです。それらのポイントを続けて正確にとらえ続けられるように、カウンターがついたタイプを使用するのが理想的です。

インダイ用天秤各種

関西の主流である竿受けとピトンを用いた置き竿釣法では、オモリの抵抗がかからないぶん食い込みがよく、アタリが鋭敏にしやすい遊動式の天秤を用いるのが一般的です。その種類はとても豊富ですが、インダイ専用のパイプ天秤やシーソー天秤といったシンプルなタイプを選べばOKです。その他、海底が起伏に富んでおり、根掛かりが多いときは足の長いパスル天秤を用いた捨て糸式にするのが有効です。また、海藻が生い茂っていたり、ポイントに高低差があるときなど、餌が埋もれないようにするときにもこの捨て糸式が効果的です。



六角オモリ20~50号

天秤にセットするオモリは底に落ちやすい六角タイプが一般的です。号数はポイントまでの距離や潮流の速さに応じて、狙いのポイントにしっかりと仕掛けを留められる重さを選択します。基本的に、軽い方が食い込みが良好です。

ハリス：ワイヤー38番30㍍前後

瀬ズレワイヤーよりもワンランク細い番手を使うのが一般的です。食い込みのよさを考えた場合、しなやかな37本ヨリを用いるのが有効です(ヨリ数が少なくなるほどかたくなる)。長さは30㍍もあれば十分です。ちなみに、食い込みアップのためにしなやかなケブラートなどのケブラー系ライン(20号前後)をハリ上3~4㍍にセットするベテランも多いです。

ハリ：インダイバリ13~16号

殻のかたい餌を瞬で噛み砕くほど強靱なアゴの力と、剛竿を満月状に曲げるほどの強い引きに対応するために強度のある専用バリが不可欠です。小バリほど食い込みがよくなるというメリットはありますが、場合によってはスッポ抜けることもあるため釣れているターゲットのサイズに合わせてサイズをセレクトしましょう。なお、ワイヤーとハリの接続方法は小型のスリーブを用いる方法が手軽かつ強度の安定性が高いとあって一般的です。その場合、チモトのタタキに穴がある撞木タイプを使用します。

道糸：ナイロン20号前後

道糸は、太号柄でもスプールのなじみがよくて投入しやすいナイロンが基本です。底の根へ頻繁にコンタクトすることを考慮すると、号数は最低でも20号を用いたいところです。なお、直線強度は強いものの、根ズレにとっても弱いPEは適しません。

クレンサルカン1~1/0

道糸と瀬ズレワイヤーは強度のある大型のサルカン(クレンサルカン)で接続します。

瀬ズレ：ワイヤー37番1.5~2.5㍍

仕掛けの根ズレ対策として道糸とハリスの間に瀬ズレというワイヤーをセットします。太さは37番が一般的です。長さは海溝の深さなどの地形の違いに応じて調整します。よほど海底の起伏が激しい釣り場でなければ2㍍前後も取っておけば安心です(タラシが長くなると投げにくくなるため、遠投を要する釣り場では短めが基本)。

パール玉(パイプ系の天秤使用時は不要)

天秤がハリの方へすり抜けないようにするためのものです。

ゴム管(パイプ系の天秤使用時は不要)

天秤の足がスクリーサルカンにからまないように、天秤の長さ分のゴム管を入れます。

スクリーサルカン1/0

餌が取られるたびに、あらかじめ餌をつけたワイヤー仕掛けごと交換するインダイ釣りでは、ハリスの接続には耐久性に優れるうえに仕掛けを瞬時に交換できるラセンを有したスクリーサルカンを使うのが一般的です。

根掛かりをはずすときは専用の道具を!!

インダイ仕掛けは手で引っ張ってもまず切れません。のびのあるナイロンを道糸に使用していれば、引っ張った反動で手に巻きついて指を切断するなどの恐れもあるため決して素手で根掛かりを扱わないこと。また、破損の恐れがあるためタックルではずそうとするのも厳禁です。根掛かりを切る専用アイテムを必ず使用しましょう。

とりあえずチャレンジするなら市販仕掛けも積極的に活用!!

起伏のある根回りを探る釣りにとって根掛かりは避けられません。仕掛けはあらかじめ作成し、予備として多めに持参しましょう。慣れないうちは市販の仕掛けセットなどを使うのもおすすめです。